

## ハワイ仏教の現状

平成三年十月一日より平成四年三月三十一日までの半年間、海外研修の機会が得られたのを契機に、世界屈指の歓楽地ハワイで、在留邦人たちが祖国日本の仏教を、どのように受容して、生活の支柱としているかを親しく見聞することができたので、見たまた、感じたままを率直にべのべることにする。

ハワイには、毎日一万人近くの日本人の観光客や商社マンたちが、群れをなして訪れているというから、現地はまさにアメリカの中の日本である。ホノルル空港は日本人でごった返している。日本人にとっては、ハワイは夢の国だというが、それは、かれらが訪れる地域が、ハワイ随一の繁華街である Waikiki や、そこから西へ向って車で数分の処に、約六万坪もある広大な敷地の中に一五五軒の店と、七八〇〇台を収容することのできる無料駐車場、世界中の有名商品が安く買える Ala Moana Shopping Center、あるいは美しく整

佐藤達玄

備され、青空と緑に囲まれた華麗な州政府の建物や、銀行商社の Office 街である Honolulu (Down Town) などを見物した上での発言であることが分った。これらの三地域と、静かな別荘地であり高級住宅地といわれている Kahala や Hawaii Kai を除くと、他は全くの平凡な、どこでも見られる風景である。その風景も太平洋の中の島特有の奇岩あり、入江あり、海水浴場あり、透き通る海原を、時どき鯨が潮を吹くのが見える「のどかな島」の一語が、すべてを説明してくれる。広大で雄壮な砂糖きび島やパイナップル島は、かつて一世たちが汗水を流して働いた地であると聞くにつけ、その苦勞のほどが偲ばれる。筆者の調査や見聞の場所は、ハワイ七島の中、オアフ島を中心としたものであることを断っておきたい。

さて、オアフ島を中心とした日本仏教の実態を報告するに際し、その輪郭をのべておいたほうが理解し易いと思うの

で、種々の視点から述べよう。

一 交通機関

東京都内のように二、三分おきに発着する地下鉄やJRに慣れたものにとっては、ハワイの不便さは、楽園の名を吹き飛ばしてくれるに十分である。ペーパー、ドライバーの筆者にとっては、レンタカーを借りることもできず、一時間に一台しか来ないバスに頼らざるをえなかったことが、ハワイに對する印象を最悪のものたした。筆者にとっては、交通機関はバスのみであった。そのバスの停留所 (Bus Stop) には、時間表がないため、いつ来るかわからないバスをじっと我慢して待つより方法がない。あの暑い日中、日蔭もない処でバスを待つ自分がみじめになってくる。筆者の住んでいた Hawaikaia から Waikiki, Ala Moana, Down Town へ行くのに途中乗換え時間を入れると、一時間はかかる。車社会のアメリカへ行くには、運転が出来ることが必須条件である。出勤にも、買物にも、食事をするのにも、すべて車を利便しなければならぬため、楽園の夢を抱いていた筆者には、すべてが苦の世界であった。こんな不便な処から、一日も早く抜け出たかった。Bus Stop で待つ間、冷たい飲物が欲しくなるが、Rest Room がないため、それも我慢しなければならぬ。市内ならビルの Rest Room を利用できる

が、郊外に出ると、それもできない。したがって郊外見物も思うようにはいかない。

二 言語

ハワイには年間約七〇〇〇〇人の移民が入って来るというが、調査資料の語るところによると、次のようである。

フィリッピン	三、八一九人	カナダ	一四六人
韓 国	九一八人	ベトナム	一四五人
中国、台湾	七〇九人	その他	九九四人
日 本	二七一人		

この数字をみても、ハワイは民族の博物館のようだ。したがって話される言語は実に多種であるから、正しい英語が次第に失われてゆくことが住民の会話からも察せられる。このことを実証するように、一九八〇年の調査では、ハワイ州の五歳以上の人口八八七・七〇七人の中、二二八・九五五人(二五・八%)は、家庭で話す言語が英語以外の言葉であるというし、五歳以上の人口の四・三%が英語力が不十分で、〇・六六%は全く英語を理解できないということである。

では日本語の普及はどうかというと、官約移民としてハワイに根を下した一世たちは、一攫千金の夢を抱いて渡米した者が多かった。かれらは故郷へ錦を飾って帰ることのみを夢みていたから、英語を積極的に学ぼうとはしなかったよう

だ。ハワイに建立された各宗の寺院には、日本語学校が開設されて、わずかに日本語教育が行われていたが、第二次大戦により、日本語学校は閉鎖された。戦時中六年間の日本語教育の空白は、ハワイの日本人社会に大きな変化をもたらした。今日の日系人社会は、今や二世から三世・四世の時代へと移行しつつあり、日本語は生活の主要言語の地位を失って、その座を英語に明けわたってしまった感だ。三世・四世は殆んど日本語を知らない完全なアメリカ市民へと変貌してしまった。「アロハ年鑑」一九九一年―一九九三年版は、「日本語教育現況」について、「ハワイでは戦前からハイスクール、

大学で日本語教育を続けていたが、一九六〇年代に入って、公私立のハイスクール、ハワイ大学で日本語教育は非常な盛況を示すようになってきた。ハワイ大学では、日本語のコースをとる学生数は、全米の各大学で日本語をとる学生総数と同じであるとさえいわれた。公立学校でも、小学校レベルから日本語を教える学校もあり、一九九〇―一九九一年で、小学校レベルで約六・〇〇〇人の子供が日本語を学び、中高レベルでは九・二〇〇人が日本語を学んでいる。小学校レベルでは一〇ヶ国語が教えられ、約一万人の子供が外国語を習い

(その六割が日本語学習)、中高レベルでは一七・六〇〇人が八ヶ国語を学び(うち九・二〇〇人が日本語)、私立高校でも殆んどが日本語科を設置している。(中略)しかし最も大きな日本

語教育の刺戟は、日本人観光客の急増であった。観光関連の諸会社、店舗が競って日本語のできる人たちを雇い入れるようになり、また日本のビジネスマンの進出により、ハワイの社会で日本語ができることは、この社会に生きて行くために極めて有利な条件であることが明らかになってきた」と語っている。

この記事をよめば、ハワイでは大変日本語が普及しているから、日本人がハワイへ行行って生活するには、少しも不自由を感じないといった印象を与えるが、実際は全くそうではないことを銘記すべきである。

日本語の通ずる処は、Waikiki, Ala Moana Shopping Center 及び日本人経営のレストランぐらいで、他は殆んど英語社会。ホテルの受付やボーイに至るまで、英語で応答するのが一般である。

### 三 宗教事情

アメリカ社会のハワイ州では、いうまでもなくキリスト教が基盤をなしていて、社会全体が日曜日を中心に動いていることを先づもって認識しなくてはならない。ハワイの寺院でもメンバー(檀信徒をこうよぶ)は日曜日に寺へ集まる。法要は日曜日に行われることが多い。葬式なども日曜日に当らない場合は、普通夜間行われる。日中、仕事を休んでまでも葬

式に列席するという習慣がないからである。昨年暮ごろ、日本の政府高官が、アメリカ人は怠け者だという失言をしたが、かれらアメリカ人は実に仕事に熱心なことは日本人以上で、バス通勤者は、早朝六時四〇分ごろバスに乗って、ハワイカイからホノルルまで出勤している。朝六時四〇分といえどもまだ暗く、空には星が出ている時刻である。かれらの多くは仕事を二つ持っていて、日中の勤務が終ると、夕方から別の職場へ出向くというくらい、仕事に熱心である。こうゆう人たちをつかまえて怠け者だという放言をしたのでかれらが怒るのも無理はない。日本の政治家(?)の放言、失言に日系企業の商社マンはにが顔して、「出先機関の人たちのことを考えて発言してほしい」と批判する。外国通といわれる高官の発言でさえこうである。アメリカ人の実態を知らないのにはあきれ返ってしまった。世界の情勢にうとい日本の政治家のレベルの低さがよく分った。

さて日本から派遣された開教師たちは、このようなアメリカ社会で、日系人を相手に布教しなければならぬ。一にも二にも開教師の仕事に徹することが要求される。つねにメンバーの要請に応える姿勢でいなければならない。それ故、車を運転中であろうが、買物に出る時であろうが、携帯電話を手放すことはできない。というのは、ハワイではメンバーが死ぬ前に、開教師は病院にかけつけて引導をわたすことが習

わしになっている。連絡があれば夜中であろうと、直ちに病院へかけつけなければならぬからである。見舞を受けた病人はみな非常に喜ぶそうである。この点、日本では、住職が病人を見舞うと、「和尚さん、まだ来るのは早いよ」といつて皮肉られることを筆者も経験している。国柄によっては、こうも違うものかと驚くほどである。

さて、ハワイへ進出した日本の各宗寺院及び神道・キリスト教会・その他の宗教団体を、「アロハ年鑑」によって記すと、次の通りである。

本派本願寺	四四ヶ寺	一八八九年布教開始
浄土宗	一五	一八九四年布教開始
日蓮宗	四	一九〇〇年布教開始
曹洞宗	八(無住一)	一九〇三年布教開始
真言宗	一六	一九一四年布教開始
天台宗	三	一九七三年布教開始

(単立寺院)

日蓮宗寺院	一
真言宗	一
浄土宗	一
東大寺	一

(神社)

ハワイ金刀比羅神社

ハワイ出雲大社

ハワイ大神宮

ハワイ石鎚神社

ハワイ稲荷神社

ハワイ大神宮

マウイ神社

(宗教団体)

世界救世教ハワイ教会

アメリカ日蓮正宗

生長の家ハワイ

カネオヘ実相センター

天照皇太神宮教ハワイ州支部

P・L教団

立正佼正会ハワイ教会

真如苑ハワイ

天理教ハワイ伝道庁

阿含宗ハワイ

ほんぶしん・ハワイ甘露の里

崇教真光

ハワイ解脱教会

本門仏立宗

ハワイ信貴山別院

ハワイ仏教の現状(佐藤)

大世自神霊宗

金光教ハワイ教務所

菩提寺教団

(ハワイ日系キリスト教会) 二十一

このような多数の仏教寺院、神社、キリスト教会及びその他の宗教団体が、メンバーの獲得や自派教団の発展をめざしてしのぎを削っている。仏教の開教師の布教活動と、キリスト教会の牧師の活動とを比較するとき、キリスト教会の優勢なることは、天地の開きがあるといっても過言ではない。その根本要因は何か。それは開教師が布教活動に後顧の憂いなく専念できるような経済的基盤を確立することが、何よりも急務である。開教師は安月給の雇われマダムか、老人ホームの管理人的存在で、日本の親元からの経済的援助の下に、軽うじて生きているに過ぎない状態である。このような状態では、わが子を開教師の後継者に育て上げようという意欲は湧いて来ないのは当然である。各寺の理事者と、日本の宗務当局とが協議して、開教師の待遇改善を計らなければ、将来は真暗である。東京に次いで物価の高いハワイにおいて、前近代的な経済観念で押し通そうとする各寺院の理事たちの頑迷さと、日本の各宗務当局者の無関心さが、ハワイ仏教を不振ならしめているといえよう。

#### 四 海外布教の困難さ

海外布教の対象は、主として日本からの移民及びその子孫にシぼられる。かれらは移民として渡るとき、自己の宗教をハワイに持込んだのである。西本願寺派の寺院が多いのは、移民の多くが広島・岡山及び関西各地の出方者であったことが原因である。明治政府は薩長土肥の出身者が多かったから、かれらの身近かな者たちを集めて、移民としてハワイに送り出したことによるといわれている。

移民の多くは砂糖工場、砂糖黍島、パイナップル島で働く労働者であったから、かれらの求めた仏教は、日本式の葬式や法事を営む儀礼中心の仏教で、宗派の教義は二の次であった。いわゆる葬式仏教そのものであった。従って労働者たちに、高度な専門的な教義中心の説教は歓迎されない。あくまでも平易な通俗説教を通して、安心を求めたのであった。日系人に聞いてみると、かれらは個人の自覚によって仏教徒になつたのではない。かれらの家が、或は親が仏教を信仰していたからというにすぎない。この点に関しては日本の現状も同じである。しかし時代は二世から三世四世へと移りつつあることに注目しなければならない。

前述のように三世、四世は日本語を話せない完全な日系アメリカ人である。親が法要などで寺へ行くから、仕方なしに

参加し、形式的に仏像に手を合わせるものの、心はイエス、キリストに向いていることを忘れてはならない。まして最近の現象として、日系男性の三五%、女性の四〇%は、他人種の人たちと結婚している。他民族との結婚交流によって、日本人としての意識は次第に稀薄となり、宗教観や信仰形態までも大巾に乱れつつあることは事実である。かれらは一・二世とは違った価値観と、違った生活パターンを示し始めた指摘する者もいる。移民たちにとっては、日本は最早や、かれらの祖国ではなくなつてしまつた。第二次世界大戦を契機として、かれらはアメリカに忠誠を誓つて以来、祖国はアメリカであることを意識している。こうした移民家族の心の変化をとらえて、布者対策を練らなくてはならない段階にきている。

#### 五 開教師の性格

仏教離れが進んでいるハワイ社会において、日系人の主流となりつつある三世、四世が、前述のようにアメリカ人として生きようとしていることを、まず認識しなければならぬ。日本語が分らない世代の人たちが、いつまで親の信仰を継承して、寺へ足を運ぶかが問題である。一・二世を対象としたこれまでの開教師は、日本語の説教でもよかつたが、日本語の分らない三世、四世を相手にする今日では、開教師の語

学力が最も重大な問題となってきた。開教師が英語を話せれば、若い人びとも寺へ来るであろうし、キリスト教に向いたかれらの心を仏教に転向させることも可能である。

しかしながら日本の各宗宗団は、開教師派遣に当って、アメリカへ渡りさえすれば、会話は自然に覚えるから何とかなるといふ甘い判断から、英会話の不十分な、或は殆んどできない人でも、本人が希望したからという安易な考えでハワイへ送り出している。

語学はそう簡単に身につくものではない。最底二・三年はみづちり勉強しなければ、ものにはならない。その間、メンバーへの布者は誰がするのか。日本語の説教では、メンバーの寺離れは進行するばかりである。筆者の体験から、アメリカ人と対等の会話ができてこそ、胸襟を開いた交流ができるのである。開教師になる条件として、英会話に精通した者という一項目を絶対に設けるべきである。

各寺院の実態をみるに、読経や法要には英語は使用されていないが、説教や法要の解説などには、英語を用いている。ハワイの寺院は、日本の寺院と違って説教する機会が実に多い。したがって開教師はつねに説教できる態勢でいなくてはならない。話の内容もつねに新しいものを用意し、しかも正しく学問的な裏付けをもって、釈尊の教えを説き、正しい信仰へと導くことが重要であり、かつ急務である。生活環境が

年ごとに多様化している今日、応用仏教学としての法話をいかに進めるかは、開教師として一日もゆるがせにすることのできない重要な課題である。仏教学や隣接科学を常に勉強して、豊富な智識を蓄えることに目覚めねばならない。筆者の知人ホノルル、キリスト教会の中野牧師は、夜七時頃、地域毎にメンバーの家に勤め帰りの信者を集めて、真剣なパイプ研究や座談会を催して、神の教えを説いている。仏教の開教師にはそのようなことを聞いたこともなかった。見習いたいものである。

## 六 曹洞宗寺院の実態

ハワイにおける曹洞宗の全寺院の年中行事は次のように計画し実行されている。

左に掲げたような盛り沢山の年中行事が、メンバーと寺との交流の原点をなしている。日本の寺院と違って、メンバーをいかにして寺に集めるかという苦心のほどが、この行事表に読みとることがができる。これほど熱心に活動している割に、仏教寺院はキリスト教会に比べたら、寺そのものが生きていない感じがする。それは寺院の建築構造からくる要因が、そう感じさせるのであろうか。本堂の内部をみても、教会のように開放的ではなく、何となく陰気くさい。在来の日本寺院をそのまま移した形体の寺が多い。禅宗という立場か

年中行事

1月	修正会, 高祖降誕会, 大般若, 新年会, 観音講, 家族礼拝, 月例サービス(先祖供養), 役員就任式
2月	涅槃会, 観音講, 月例サービス
3月	彼岸会, 観音講, 月例サービス
4月	花まつり, 観音講, 月例サービス
5月	母の日, 観音講, 月例サービス
6月	仏心会, 観音講, 棚経, 月例サービス
7月	家族礼拝, 観音講, せがき会, 盆ダンス, 月例サービス
8月	仏心会, せがき会, 月例サービス
9月	彼岸会, 仏心会, 観音講, 両祖忌, 家族礼拝, 月例サービス
10月	仏心会, 観音講, 達磨忌, 永代経, 月例サービス
11月	太祖降誕会, 仏心会, 観音講, 月例サービス
12月	札焼き, 成道会, 摂心会, 観音講, 月例サービス

ら、簡素でしかも宗教的雰囲気をかもし出し、本堂に入った  
ら、なんとなく安らぎを覚えるような寺院が望ましい。荘厳  
道具を並べたてて密教的・浄土教的傾向に走り勝ちなところ  
は、若い世代に違和感を与えているという批判を耳にした。  
さて、年中行事を通して、寺とメンバーとの密着度はどの  
程度のものであるか。メンバーたちは、毎月の会費を納入す  
るだけで、それ以外は積極的に何かを寄附するということは

ないようだ。かれらが開教師に差出す「お布施」の中味は、  
時代感覚を全く無視したものである。一世たちが僅かな労働  
賃金の中から、心ばかりの「お布施」を包んだ時代の金銭感  
覚がいまだに生かされ、実施されていることには、只々、驚  
くのみである。

寺の開教師の月給は、各宗通じて同じよりだ。最も布教法  
が充実していると感じられる天理教、或はキリスト教の牧師  
の月給も押しなべて同じ水準であった。例外もかなり多いと  
聞いているが、実態は分らない。

ハワイの物価は全米一高い処といわれているが、その水準  
は正に東京の物価と同じか、ややそれを上まわっている。つ  
まりラーメン一杯が東京ならせいぜい五〇〇円六〇〇円であ  
るが、ハワイでは七ドルで、それに十五%のチップを出す  
千円近いものになる。この一事をみてもハワイの物価は高い  
といわざるをえない。

生活苦に追われるサラリーマンたちは、前述のように職業  
をかけもちしないと、子供の教育もできないと嘆いている。  
このような経済環境の中で生活する開教師の月給は一、五  
〇〇ドル乃至一六〇〇ドル位である。この月給では常に赤  
字で、日本の親元からの送金によって、なんとか開教師とし  
ての体面を保っているのが実状である。宗務当局が仏教の国  
際化を叫ぶなら、まず、開教師が安心して布教に専念できる

ような体制を樹てるべきである。

宗門のある代表者たちがハワイを訪れる場合には、現地開教師たちは忙しい時間をさいて、わざわざ空港まで出迎えをしなければならぬ。寺の会計係はガソリンの消費に眼を光らせているから、その気苦労は並大抵でない。日本からの到来者は、送迎は当りまえだと云わんばかりの素振を見せる者がいるようだ。帰国の際の土産など、開教師は自腹を切らざるをえないようだ。ハワイ訪問者は開教師に経済的負担をかけるはならない。

さて、ハワイにおける曹洞宗寺院の内幕をのべよう。寺院間では「感謝録」と称する毎月の収入の明細をプリントして配布している。この「感謝録」によって各寺院の収入が一目で分かるが、この制度が善いか悪いかは別として、これあるがために、各寺のメンバーの「お布施」の額が統一されてしまったように思われる。ではその布施の内容はどうか。

- 1、一回の法要布施は三〇ドル、五〇ドル、一〇〇ドル  
二〇〇ドル、三〇〇ドルが最高。
- 2、お盆の棚経は一般に二ドル位。
- 3、お葬式の場合は、教団に三〇〇ドル、婦人会に一〇〇ドル、梅花講に一〇〇ドル。
- 4、家の新築、新車購入時の厄除祈禱の場合は三〇ドル〜六〇ドル。

ハワイ仏教の現状（佐藤）

5、塔婆供養料（大）六尺、五ドル、（小）経木一尺一ドル

### 七 仏教の国際化に備えて

(1) ハワイにおける中国僧、韓国僧、チベット僧たちは、みな梵行を実行し、僧形を守っている。これに反し日本の僧侶は梵行はおろか、僧形さえ守っていない。梵行については日本仏教の特殊事情から実行することは困難であるが、せめて海外で活躍する開教師が、中国・韓国・チベットの僧たちのように、僧侶であることを鮮明にするためにも、僧形を守ることに徹したならば、種々の不評を和らげることも可能と思われる。

(2) ハワイ別院に「教化研修所」（仮称）なるものを設けて、開教師一同が宗義や儀礼、布教方法など、仏教の活性化を計るために、衆智を集めて将来への対策を協議する機関を設けるべきである。

(3) 昔から寺院は、その所在地で文化センター的役割を果してきたことに思いを致し、三世・四世に日本文化を紹介し、これが指導に当れるような素養を身につけておくべきである。日曜学校などを開設して書道、華道、茶道、柔道、剣道など、若者が参加しやすいもから手がけ、若者にキリスト教社会にない文化の発掘に努める情熱が望ましい。この場合

かれらに会場を提供するだけでなく、開教師が率先してその催しに参加し、かれらと心からの交わりのできる機会を積極的にもつことに心がけるべきである。

(4) 開教師を日本から派遣するという、これまでの方法は、すでに種々の点から限界に来ていると思われる。語学力・民衆との密着度などから考えても、開教師は日系人の中から選出し、僧侶としての資格取得のために、日本の本山で一定期間、修行させることに方向転換したらどうかであろうか。

(5) 曹洞宗では現在「梅花講」を大々的に普及させることに努力しているが、ハワイで梅花講に参加している者は老年の婦人ばかりで、若者は皆無に等しい。日本には弘法大師の御詠歌として老人層には親しまれているから、そうゆう土壌を媒介として梅花講も成功したようであるが、それでも若年層には一向に魅力ないものとして無視されている。それがワイという弘法様の御利益など全くない土地で、梅花講のキャンペーンを展開したところで、どれほどの効果があるであろうか。若い女性たちは、まだ死にたくないから梅花講には入りたくないといっている。してみると若い女性の眼に映った梅花講は、極楽浄土への約束手形であり、老人になったら考えてみよう程度のものである。キリスト教会へ行けば老若男女が実に楽しそうに讃美歌を合唱しているではないか。この

ように老若男女が喜んで参加できるような宗教音楽でも考えた方が将来性があるのではないか。現にハワイの寺で、老若男女が楽しい夕べの一時を過すカラオケが大はやりであることを、つけ加えておきたい。